

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2020-179902

(P2020-179902A)

(43) 公開日 令和2年11月5日(2020.11.5)

(51) Int.Cl.	F I	テーマコード (参考)
B 6 5 D 83/00 (2006.01)	B 6 5 D 83/00 F	2 B 1 2 1
B 6 5 D 85/00 (2006.01)	B 6 5 D 85/00 A	3 E 0 6 8
A 6 1 L 9/12 (2006.01)	A 6 1 L 9/12	4 C 1 8 0
A O 1 M 1/20 (2006.01)	A O 1 M 1/20 D	

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 12 頁)

(21) 出願番号 特願2019-85257 (P2019-85257)
 (22) 出願日 平成31年4月26日 (2019. 4. 26)

(71) 出願人 000006909
 株式会社吉野工業所
 東京都江東区大島 3 丁目 2 番 6 号
 (74) 代理人 100076598
 弁理士 渡辺 一豊
 (74) 代理人 100165607
 弁理士 渡辺 一成
 (74) 代理人 100196690
 弁理士 森合 透
 (71) 出願人 000102544
 エステー株式会社
 東京都新宿区下落合 1 丁目 4 番 1 0 号
 (72) 発明者 坂田 耕太
 東京都江東区大島 3 丁目 2 番 6 号 株式会
 社吉野工業所内

最終頁に続く

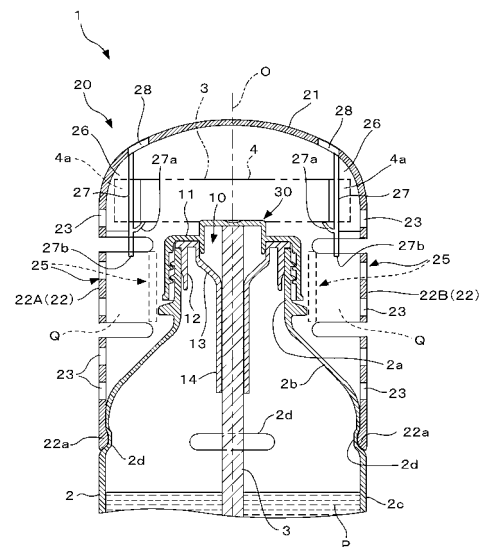
(54) 【発明の名称】 揮散容器

(57) 【要約】

【課題】 従来よりも少ない部分点数で揮散量の調整を可能とする揮散容器を創出することを課題とする。

【解決手段】 揮散液 P を収容する容器本体 2 と、容器本体 2 の口筒部 2 a に装着される装着筒 1 0 と、装着筒 1 0 から容器本体 2 内に垂下設されて揮散液 P を吸い上げる吸上げ芯 3 と、吸上げ芯 3 によって吸い上げられた揮散液 P を揮散させる揮散部材 4 と、容器本体 2 に装着されるキャップ本体 2 0 とを有する揮散容器であって、キャップ本体 2 0 は、揮散孔 2 3 が形成された頂壁 2 1 及び側壁 2 2 を有し、側壁 2 2 には、その一部を容器軸 O 方向に変形可能に形成された変形部 2 5 と、変形部 2 5 の変形状態を維持することにより、揮散液 P が外部に揮散される揮散開口 Q を形成する係止部 2 7 b、2 8 b が一体に形成された構成とする。

【選択図】 図 3



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

揮散液（P）を収容する容器本体（2）と、該容器本体（2）の口筒部（2a）に装着される装着筒（10）と、該装着筒（10）から前記容器本体（2）内に垂下設されて前記揮散液（P）を吸い上げる吸上げ芯（3）と、該吸上げ芯（3）によって吸い上げられた揮散液（P）を揮散させる揮散部材（4）と、前記容器本体（2）に装着されるキャップ本体（20）とを有する揮散容器であって、

キャップ本体（20）は、揮散孔（23）が形成された頂壁（21）及び側壁（22）を有し、該側壁（22）には、その一部を容器軸（0）方向に変形可能に形成された変形部（25）と、前記変形部（25）の変形状態を維持することにより、揮散液（P）が外部に揮散される揮散開口（Q）を形成する係止部（27b, 28b）が一体に成形されていることを特徴とする揮散容器。

10

【請求項 2】

変形部（25）が、少なくとも揮散部材（4）の外周面よりも内側の位置まで変形可能に構成されている請求項 1 記載の揮散容器。

【請求項 3】

キャップ本体（20）は、前側壁（22A）及び後側壁（22B）に、その一部を変形させる変形部（25）が設けられ、前記前側壁（22A）及び前記後側壁（22B）に対して直交する位置に設けられた右側壁（22C）及び左側壁（22D）が、前記変形部（25）を変形前の初期形状に復元させる係止解除機能を備える請求項 1 又は 2 記載の揮散容器。

20

【請求項 4】

変形部（25）を変形前の初期形状に復元させる係止解除機能として、一端に指掛け部（29a）が形成され、他端に変形部（25）を押圧して係止部（28b）による係止を解除する押圧部（29b）が形成されて揺動可能に設けられた揺動部材（29）を備える請求項 1 又は 2 記載の揮散容器。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、揮散量を調整し得る揮散容器に関する。

30

【背景技術】**【0002】**

特許文献 1 に記載の揮散容器は、容器体口頸部 12 の上端開口を閉塞する頂板部 21 に穿設した吸上げ芯貫通用の窓孔 22 に上端部を嵌着し、下端部を容器体 A 内に垂下させた吸上げ芯 B2 と、吸上げ芯 B2 からの液を揮散窓より揮散する吸上げ芯 B2 上の揮散板 B3 とを備えて構成されており、キャップ本体 B1 に対して揮散窓 42 が形成された蓋体 B4 を上方へスライドさせて揮散窓 42 の開口面積を可変することにより、揮散量を調整することが可能となっている。

【先行技術文献】**【特許文献】**

40

【0003】

【特許文献 1】特開 2010 - 195445 号公報

【発明の概要】**【発明が解決しようとする課題】****【0004】**

上記特許文献 1 に記載された揮散容器において揮散量を調整するには、キャップ本体 B1 と揮散窓 42 を備えた蓋体 B4 とを別々に形成する必要があった。

しかし、近年においては部品点数の削減によるコスト軽減の促進が求められており、そのためには従来よりも更に部分点数の少ない構成で揮散量の調整を可能とする揮散容器の開発が求められている。

50

【 0 0 0 5 】

本発明は、上記した従来技術における問題点を解消すべく、従来よりも少ない部分点数で揮散量の調整を可能とする揮散容器を創出することを課題とする。

【課題を解決するための手段】

【 0 0 0 6 】

上記課題を解決するための手段のうち、本発明の主たる手段は、

揮散液を収容する容器本体と、容器本体の口筒部に装着される装着筒と、装着筒から容器本体内に垂下設されて揮散液を吸い上げる吸上げ芯と、吸上げ芯によって吸い上げられた揮散液を揮散させる揮散部材と、容器本体に装着されるキャップ本体とを有する揮散容器であって、

10

キャップ本体は、揮散孔が形成された頂壁及び側壁を有し、側壁には、その一部を容器軸方向に変形可能に形成された変形部と、変形部の変形状態を維持することにより、揮散液が外部に揮散される揮散開口を形成する係止部が一体に形成されていることを特徴とする、と云うものである。

【 0 0 0 7 】

本発明の主たる手段では、側壁に設けられた変形部を押圧すると、変形部が陥没状態に設定されて大きな揮散開口が形成され、揮散液をこの揮散開口を介して揮散させることが可能となるため、揮散量を増大させることができる。

【 0 0 0 8 】

本発明の他の手段は、主たる手段に、変形部が、少なくとも揮散部材の外周面よりも内側の位置まで変形可能に構成されている、との手段を加えたものである。

20

【 0 0 0 9 】

上記手段では、揮散部材の外周面側の下面が、変形部が陥没変形することによって形成された揮散開口に対向配置することになり、この揮散開口を通じての揮散を容易とすること、特にキャップ本体の内側に留まっている気化状態の揮散液を外部に容易に揮散させることが可能となるため、揮散量を増大させることができる。

【 0 0 1 0 】

本発明の他の手段は、上記手段に、キャップ本体は、前側壁及び後側壁に、その一部を変形させる変形部が設けられ、前側壁及び後側壁に対して直交する位置に設けられた右側壁及び左側壁が、変形部を変形前の初期形状に復元させる係止解除機能を備える、と云うものである。

30

上記手段では、右側壁及び左側壁を押圧すると、係止部による変形部の係止が解除されて変形部が変形前の初期形状に復元するため、揮散量を元の初期状態まで減少させることができる。このため、前側壁及び後側壁に対する押圧操作による変形部の係止と、右側壁及び左側壁に対する押圧操作による変形部の係止解除を選択して行うことにより、揮散量を調整することが可能となる。

【 0 0 1 1 】

本発明の他の手段は、変形部を変形前の初期形状に復元させる係止解除機能として、一端に指掛け部が形成され、他端に変形部を押圧して係止部による係止を解除する押圧部が形成されて揺動可能に設けられた揺動部材を備える、と云うものである。

40

上記手段では、揺動部材を操作すると、係止部による変形部の係止が容易に解除されて変形部が変形前の初期形状に復元するため、揮散量を元の初期状態まで減少させることができる。このため、押圧操作による変形部の係止と、揺動部材による変形部の係止解除とを選択して行うことにより、揮散量を調整することが可能となる。

【発明の効果】

【 0 0 1 2 】

本発明の揮散容器では、揮散開口を形成するための変形部をキャップ本体に一体的に形成することができるため、従来よりも少ない部分点数で揮散量を調整することができる。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 1 3 】

50

【図 1】本発明の第 1 実施例を示す揮散容器の平面図である。
【図 2】第 1 実施例の揮散容器を正面から示す半断面図である。
【図 3】第 1 実施例の揮散容器を側方から示す断面図である。
【図 4】変形後の開口状態を示す図 2 の I V - I V 線における横断面図である。
【図 5】本発明の第 2 実施例を示す揮散容器の平面図である。
【図 6】第 2 実施例の揮散容器の正面から示す半断面図である。
【図 7】第 2 実施例の揮散容器の変形前の状態を図 5 中の V I I - V I I 線にて切断した様子を示すものであり、A は横断面図、B は縦断面図である。
【図 8】第 2 実施例の揮散容器の変形後の状態を図 5 中の V I I - V I I 線にて切断した様子を示すものであり、A は横断面図、B は縦断面図である。
【図 9】第 2 実施例の揮散容器の係止解除状態を示す図 5 中の V I I - V I I 線における縦断面図である。

10

【発明を実施するための形態】

【0014】

以下、本発明の実施の形態について図面を参照しつつ説明する。

本発明の揮散容器は、例えば芳香剤、消臭剤又は防虫忌避剤等の揮散性の液体（以下、揮散液 P という）を収容して室内や車内などの空気雰囲気中に揮散させるための容器である。

【0015】

本発明の第 1 実施例の揮散容器について図 1 乃至図 4 を用いて説明する。

20

揮散容器 1 は、揮散液 P が収容される容器本体 2 と、揮散液 P を吸い上げる棒状の吸上げ芯 3 と、吸上げ芯 3 が吸い上げた揮散液 P を気化させて容器本体 2 の外部に向けて揮散させる揮散部材 4 と、吸上げ芯 5 を保持してその下端を容器本体 2 内の揮散液 P 中に含浸させる装着筒 10 と、容器本体 2 にオーバーキャップ状に装着されてなるキャップ本体 20 とを有して構成されている。尚、容器本体 2、装着筒 10 及びキャップ本体 20 は夫々合成樹脂材料で形成されている。

【0016】

容器本体 2 は、有底筒状の胴部 2c の上に縮径状に形成されてなる肩部 2b を介して外周面に雄ネジが刻設された口筒部 2a が立設する構成である。本実施例では胴部 2c が平面視略楕円形状の容器本体 2 であるが、容器本体 2 の形状はこれに限られるものではない。

30

容器本体 2 の口筒部 2a には装着筒 10 が装着され、その上からネジキャップ式の蓋体 30 が螺着されることによって被嵌されている。尚、蓋体 30 は揮散容器 1 の使用を開始する際に口筒部 2a から取り外される。

【0017】

装着筒 10 は、円環状のフランジ 11 の下面の外側にインナーシール部 12 を有し、その内側にすり鉢状のテーパ部 13 が形成され、その下端には下方に向かって延びる長筒部 14 が一体に延設されている。尚、テーパ部 13 には空気置換用の貫通孔 15 が形成されている。

装着筒 10 は、フランジ 11 の下面を口筒部 2a の上面に載置し、インナーシール部 12 を口筒部 2a の内周面に密着させ、更にテーパ部 13 及び長筒部 14 を容器本体 2 の底部（図示せず）方向に向かって垂下させた状態で装着されている。

40

【0018】

吸上げ芯 3 は、例えばフェルト、合成繊維束、天然繊維束、発泡合成樹脂などの多孔質素材からなる棒状の部材で形成されており、テーパ部 13 及び長筒部 14 の内側に挿入された状態で保持されている。吸上げ芯 3 の上端はフランジ 11 よりも上方に突出しており、後述する揮散部材 4 の下面に接触可能に構成されている。また吸上げ芯 3 の下端は容器本体 2 の底部に達しており、容器本体 2 内に充填されている揮散液 P を吸い上げることが可能となっている。

【0019】

50

揮散部材 4 は、例えば天然紙、合成紙などの紙類、又はフェルト、合成繊維束、天然繊維束、発泡合成樹脂などの多孔質素材によって、厚く且つ広い面積を有し、全体としても広い表面積を備える形状で形成されており、吸上げ芯 3 が吸い上げた揮散液 P を含浸した状態で空気雰囲気中に効率良く揮散することが可能となっている。

【0020】

図 2 に示すように、キャップ本体 20 は、底部側が開放された有頂筒状（オーバーキャップ状）に構成され、平面視略楕円形状に形成された頂壁 21 と短軸側の側壁 22 である前側壁 22A 及び後側壁 22B には複数の揮散孔 23 が形成されている。

また短軸側に設けられた前側壁 22A、後側壁 22B 及び長軸側に設けられた右側壁 22C、左側壁 22D には、上下に所定の間隔を有して周方向に平行に且つ間欠的に延びる一対の長孔 24A、長孔 24B が形成されている。上側の長孔 24A の周方向の 4 箇所の位置には柱部 24a が夫々形成され、同様に下側の長孔 24B の周方向の 4 箇所の位置にも柱部 24b が夫々形成されている。そして、前側壁 22A 及び後側壁 22B 内の一部の領域、すなわち上側の長孔 24A に設けられた 2 つの柱部 24a と下側の長孔 24B に設けられた 2 つの柱部 24b とによって挟まれる領域に略長形状から成る変形部 25 が設けられている。この変形部 25 は、前側壁 22A 又は後側壁 22B において、上側左右に設けられた柱部 24a と下側左右に設けられた柱部 24b を夫々起点として、変形部 25 の中央部分が容器軸 O に近づく方向に向かって陥没変形可能に構成されている。このため、変形部 25 の中央部分を容器軸 O に近づく方向に向かって押圧すると、変形部 25 を陥没状態に変形させることが可能である。

【0021】

図 1 及び図 3 に示すように、長孔 24A よりも上側に位置するキャップ本体 20 の内側の 4 箇所の位置には、前側壁 22A 又は後側壁 22B の内面から容器軸 O 側に向けて夫々突出する凸壁部 26 が夫々一体に形成されている。各凸壁部 26 はキャップ本体 20 内に設けられた揮散部材 4 に形成された切欠部 4a 内に配置されており、各凸壁部 26 の容器軸 O 側の端部には、鉛直方向に延びる長板状の係止部材 27 が一体に連設されている。

【0022】

各支持部材 27 の内面には上方に向かって略 J 字形状に形成された支持片 27a が夫々形成されており、揮散部材 4 の下面は 4 箇所の位置に設けられた各支持片 27a によって支持されている。また係止部材 27 の下端には、変形部 25 の上端よりも僅かに下がった位置まで延設された係止部 27b が設けられている。

尚、4 箇所に設けられた支持部材 27 の上端と対向する頂壁 21 の各位置には射出成型用の開孔部 28 が形成されているが、この開孔部 28 は揮散液 P が揮散する孔としても機能する。

またキャップ本体 20 の側壁 22 の下端には、容器軸 O 方向に突出する係合突起 22a が形成されており、容器本体 2 の胴部 2c に形成された係合凹部 2d に係合可能に構成されている。

【0023】

次に上記揮散容器 1 の使用方法について説明する。

容器本体 2 に対しキャップ本体 20 を持ち上げると、係合突起 22a と係合凹部 2d との係合が外れるため、容器本体 2 からキャップ本体 20 を取り外すことができる。この状態において、蓋体 30 を螺脱させて口筒部 2a を被嵌していた蓋体 30 を取り外すことにより、吸上げ芯 3 の上端を露出させることができる。

【0024】

あるいは初めから吸上げ芯 3 が装着部 10 に設けられていない構成の場合には、蓋体 30 を外した状態において、吸上げ芯 3 を装着部 10 のテーパ部 13 及び長筒部 14 内に挿入して吸上げ芯 3 の下端を容器本体 2 内の揮散液 P 内に沈降させる。

【0025】

次に、再度キャップ本体 20 を容器本体 2 の上部に装着して係合突起 22a を係合凹部 2d に係合させると共に、吸上げ芯 3 の上端面を揮散部材 4 の下面に接触させる。

これにより、吸上げ芯 3 内を浸透して上方に向かって吸い上げられた揮散液 P で揮散部材 4 を含浸させることができる。揮散部材 4 の表面から気化した揮散液 P は、キャップ本体 20 に形成されている複数の揮散孔 23 及び開孔部 28 を介して外部に揮散することになる。

【0026】

次に、前側壁 22A と後側壁 22B を片手で挟んで把持した状態において、各変形部 25 の中央部近傍を夫々容器軸 O に向けて押圧して陥没変形させる。すると、各変形部 25 の上端が係止部 27b を容器軸 O に向かって乗り越える。係止部 27b は、変形部 25 の上端の変形領域内に突出しているため、把持した手を離すと、変形部 25 の上端を係止部 27b で係止することができる。よって、陥没変形後の変形部 25 が、変形前の初期の形状に復元することを阻止することができる（図 3 の破線及び図 4 参照）。この状態では、変形部 25 が容器軸 O に向かって大きく陥没変形する状態が維持され、この陥没変形した部分に揮散液 P が揮散するための揮散開口 Q を形成することができる。このように、係止部 27b は変形部 25 を陥没状態に維持する係止機構として機能する。

【0027】

ここで、図 3 及び図 4 に示すように変形部 25 は、揮散部材 4 の外周面よりも内側の位置まで陥没変形可能に構成されており、陥没変形した状態では、揮散部材 4 の外周面側の下面を、変形部 25 が陥没変形することによって形成された揮散開口 Q に対向配置させることが可能となる。これにより、気化した揮散液 P は、この揮散開口 Q を通じて容易に揮散することが可能となることから揮散量を増大させることが可能である。

【0028】

次に、変形部 25 が陥没変形した状態において、平面視において前側壁 22A と後側壁 22B と直交する方向に設けられた右側壁 22C、左側壁 22D を容器軸 O に向けて同時に押圧すると、右側壁 22C、左側壁 22D には容器軸 O から離れる方向に大きな力が作用し、変形部 25 が容器軸 O から離れる外方向に膨出変形する。この際、変形部 25 の上端が係止部 27b を外方向に乗り越えるため、係止部 27b による変形部 25 上端の係止を容易に解除することができる。これにより、変形部 25 は変形前の初期形状（外側に膨らむ膨出形状）に復元し、陥没変形によって形成された揮散開口 Q が閉じられるため、揮散量を変形前の初期状態まで減少させることができる。すなわち、キャップ本体 20 を構成する右側壁 22C 及び左側壁 22D は、陥没変形した変形部 25 を変形前の初期の形状に戻すための係止解除機能を備えている。

【0029】

このように、本発明では、キャップ本体 20 に設けられた変形部 25 を陥没変形させ又は変形前の初期形状（膨出形状）に戻すことにより、揮散液 P の揮散量を調整することが可能となっている。

【0030】

図 5 乃至図 9 は本発明の第 2 実施例を示している。

第 2 実施例に示す揮散容器 1 が、上記第 1 実施例において説明した揮散容器 1 と異なる点はキャップ本体 20 の構成にあり、その他の構成及び効果は第 1 実施例同様であるため、以下においては主としてキャップ本体 20 を中心に説明する。尚、同一の部材について同一の符号を付するものとする。

【0031】

図 5 に示すように、第 2 実施例に示すキャップ本体 20 は、頂壁 21 と、容器軸 O から外側に向かって膨出する湾曲面で形成された前側壁 22A 及び後側壁 22B と、右側壁 22C 及び左側壁 22D とで形成される側壁 22 を有して形成され、底部側が開放する有頂筒状の部材である。

頂壁 21、前側壁 22A 及び後側壁 22B には複数の揮散孔 23 が形成され、更に前側壁 22A 及び後側壁 22B には上下方向に所定の間隔を有して水平に配置された長孔 24A、24B が形成されている。

【0032】

10

20

30

40

50

前側壁 2 2 A 側の、長孔 2 4 A の左端部と長孔 2 4 B の左端部との間、及び長孔 2 4 A の右端部と長孔 2 4 B の右端部との間には高さ方向に沿って延びる凹条部 2 4 c が夫々形成されている。そして、上下に配置された長孔 2 4 A , 2 4 B と左右の配置された一対の凹条部 2 4 c とによって囲まれた部分に略長形状からなる変形部 2 5 が形成されている。そして、変形部 2 5 の中央部近傍を押圧することにより、変形部 2 5 は左右の凹条部 2 4 c を起点として、中央部分が容器軸 O に近づく方向に陥没変形することが可能となっている。

【 0 0 3 3 】

図 5 及び図 7 に示すように、キャップ本体 2 0 を形成する頂壁 2 1 の前側壁 2 2 A 側寄りの位置には開孔部 2 8 が形成されている。この開孔部 2 8 には、開孔部 2 8 の前端部分を開孔部 2 8 の内部下方に向かって垂下設させた垂下片部 2 8 a と、垂下片部 2 8 a の下端に形成された係止部 2 8 b と、係止部 2 8 b の近傍に薄肉状に形成されて成る支点部 2 8 c と、この支点部 2 8 c に連設された揺動部材 2 9 とが一体に形成されている。

【 0 0 3 4 】

揺動部材 2 9 は長板状又は棒状に形成され、上端に指掛け部 2 9 a が、下端に押圧部 2 9 b が設けられている。上端の指掛け部 2 9 a はキャップ本体 2 0 内に設けられた揮散部材 4 に形成された切欠部 4 a を通って開孔部 2 8 内に配置され、下端の押圧部 2 9 b は容器本体 2 の口筒部 2 a を被嵌している蓋体 3 0 の側面 3 1 に対して近接配置されており、この状態で支点部 2 8 c に対して揺動可能に支持されている。

【 0 0 3 5 】

第 1 実施例同様、第 2 実施例に示す揮散容器 1 においても、容器本体 2 の口筒部 2 a を被嵌している蓋体 3 0 を外し、吸上げ芯 3 の上端面を揮散部材 4 の下面に接触させることにより使用を開始することができる。吸上げ芯 3 を通じて吸い上げられて揮散部材 4 を含浸した揮散液 P は、揮散部材 4 からキャップ本体 2 0 に形成されている揮散孔 2 3 及び開孔部 2 8 を介して外部の空気雰囲気中に揮散される。

【 0 0 3 6 】

図 8 に示すように、手でキャップ本体 2 0 の前側壁 2 2 A に設けられた変形部 2 5 を容器軸 O に向かって押圧すると、変形部 2 5 を容器軸 O に陥没変形させることができる。この際、変形部 2 5 の上端が係止部 2 8 b を内方に向かって乗り越える。係止部 2 8 b の下端は、変形部 2 5 の上端の変形領域内に突設されているため、押圧した手を離すと、変形部 2 5 の上端を係止部 2 8 b で係止することができる。よって、陥没変形後の変形部 2 5 が、変形前の初期形状（膨出形状）に復元することを阻止することができる。この係止状態では、変形部 2 5 が容器軸 O に向かって大きく陥没変形した状態が維持され、この陥没変形した部分に揮散液 P が揮散するための揮散開口 Q を形成することができる。このように、係止部 2 8 b は変形部 2 5 を陥没状態に維持する係止機構として機能する。

【 0 0 3 7 】

図 5 及び図 7 等 に示すように第 2 実施例の構成においても、変形部 2 5 は、揮散部材 4 の外周面よりも内側の位置まで陥没変形可能に構成されており、陥没変形した状態では、揮散部材 4 の外周面側の下面を、変形部 2 5 が陥没変形することによって形成された揮散開口 Q の真上の位置に対向配置させることができることから、揮散開口 Q を介して揮散する揮散液 P の揮散量を増大させることが可能である。

【 0 0 3 8 】

図 9 に示すように、開孔部 2 8 を通じて垂下片部 2 8 a と揺動部材 2 9 の上端である指掛け部 2 9 a との間に指先を挿入して揺動部材 2 9 を揺動させると、揺動部材 2 9 の下端の押圧部 2 9 b で変形部 2 5 の内面を外部に向かって押し出すことができる。この際、変形部 2 5 の上端が係止部 2 8 b を外部に向かって乗り越えるため、係止部 2 8 b による変形部 2 5 の上端の係止を容易に解除することができる。これにより、変形部 2 5 は変形前の初期形状（膨出形状）に復帰するため、揮散量を変形前の初期状態まで減少させることができる。すなわち、揺動部材 2 9 は、係止部 2 8 b による変形部 2 5 の係止を解除する係止解除機構としての機能を備えるものである。

【 0 0 3 9 】

このように、第 2 実施例においても、キャップ本体 2 0 に設けられた変形部 2 5 を陥没変形させ又は変形前の初期形状（膨出形状）に戻すことにより、揮散開口 Q を形成し又は形成した揮散開口 Q を閉じることができることから、上記同様に揮散液 P の揮散量を調整することが可能である。

【 0 0 4 0 】

以上、実施例に沿って本発明の構成とその作用効果について説明したが、本発明の実施の形態は上記実施例に限定されるものではない。

【 0 0 4 1 】

例えば、上記実施例では、容器本体 2 の蓋体としてネジキャップ式の蓋体 3 0 を示して説明したが、蓋体 3 0 はこれに限られるものではなく、嵌合によって口筒部 2 a を被嵌するタイプのものであっても良い。

10

【 0 0 4 2 】

また第 1 実施例では、変形部 2 5 を前側壁 2 2 A と後側壁 2 2 B の双方に設けた場合を示して説明したが、いずれか一方にのみに設ける構成であっても良い。

【 0 0 4 3 】

また第 2 実施例では、変形部 2 5 及び係止機構及び係止解除機構を前側壁 2 2 A 側のみに設けた構成を示して説明したが、後側壁 2 2 B 側にも同様の構成を設ける構成とすることで更に揮散量を増大させることが可能となる。

【 産業上の利用可能性 】

20

【 0 0 4 4 】

本発明は、芳香剤や消臭剤等を揮散する揮発容器の分野における用途展開を更に広い領域で図ることができる。

【 符号の説明 】

【 0 0 4 5 】

- 1 : 揮散容器
- 2 : 容器本体
- 2 a : 口筒部
- 2 b : 肩部
- 2 c : 胴部
- 2 d : 係合凹部
- 3 : 吸上げ芯
- 4 : 揮散部材
- 4 a : 切欠部
- 1 0 : 装着筒
- 1 1 : フランジ
- 1 2 : インナーシール部
- 1 3 : テーパ部
- 1 4 : 長筒部
- 1 5 : 貫通孔
- 2 0 : キャップ本体
- 2 1 : 頂壁
- 2 2 : 側壁
- 2 2 A : 前側壁
- 2 2 B : 後側壁
- 2 2 C : 右側壁
- 2 2 D : 左側壁
- 2 2 a : 係合突起
- 2 3 : 揮散孔
- 2 4 A : 長孔

30

40

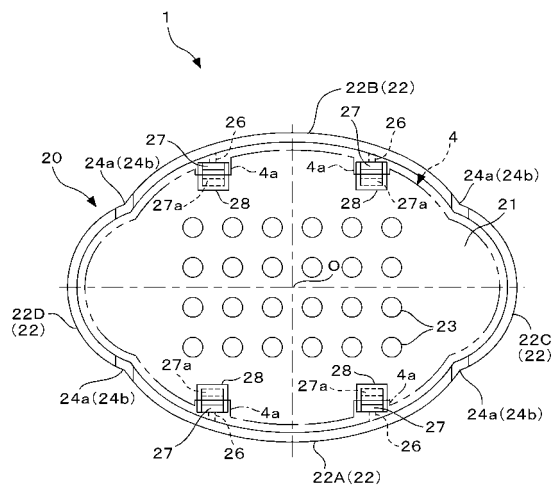
50

- 2 4 B : 長孔
 2 4 a : 柱部
 2 4 b : 柱部
 2 4 c : 凹条部
 2 5 : 变形部
 2 6 : 凸壁部
 2 7 : 係止部材
 2 7 a : 支持片
 2 7 b : 係止部
 2 8 : 開孔部
 2 8 a : 垂下片部
 2 8 b : 係止部
 2 8 c : 支点部
 2 9 : 揺動部材
 2 9 a : 指掛け部
 2 9 b : 押圧部
 3 0 : 蓋体
 3 1 : 側面
 O : 容器軸
 P : 揮散液
 Q : 揮散開口

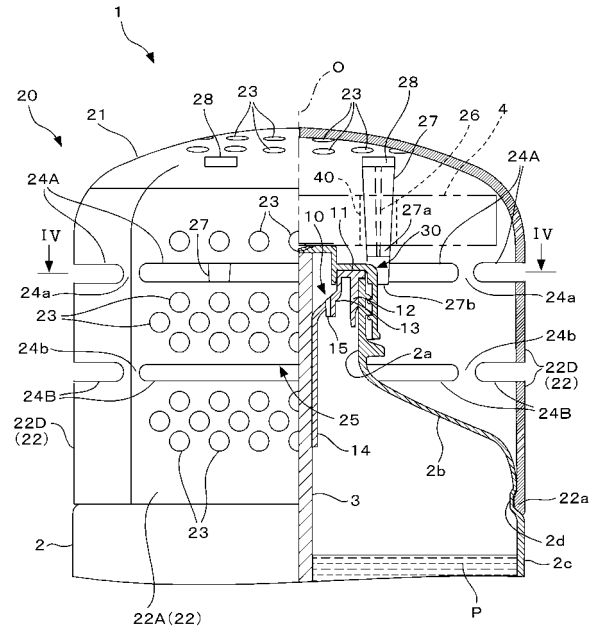
10

20

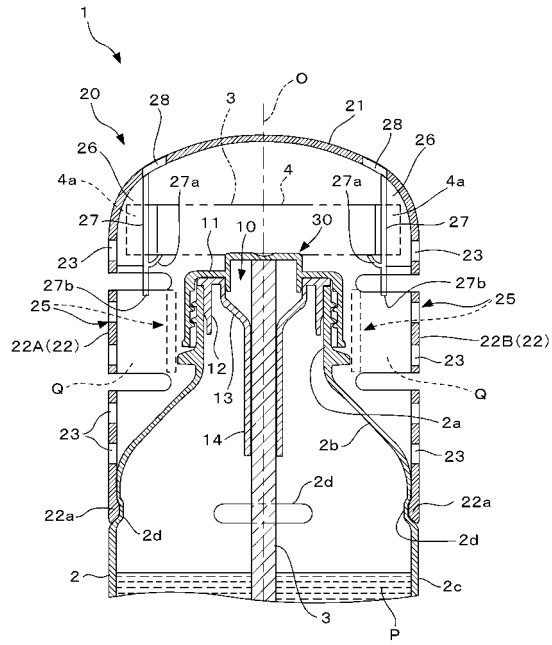
【図 1】



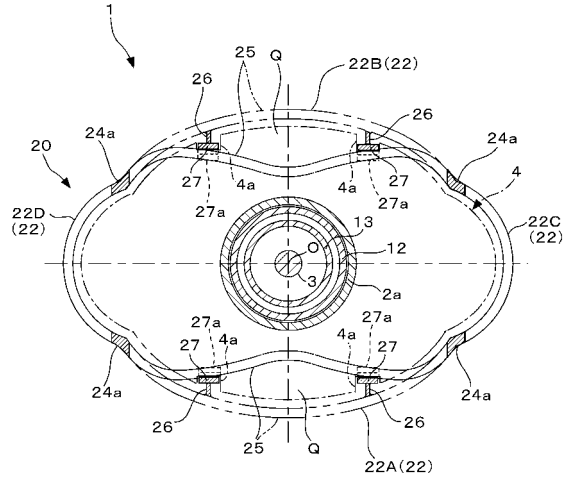
【図 2】



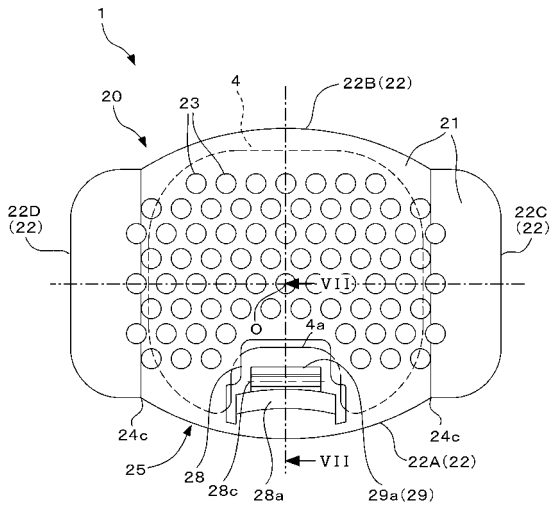
【図 3】



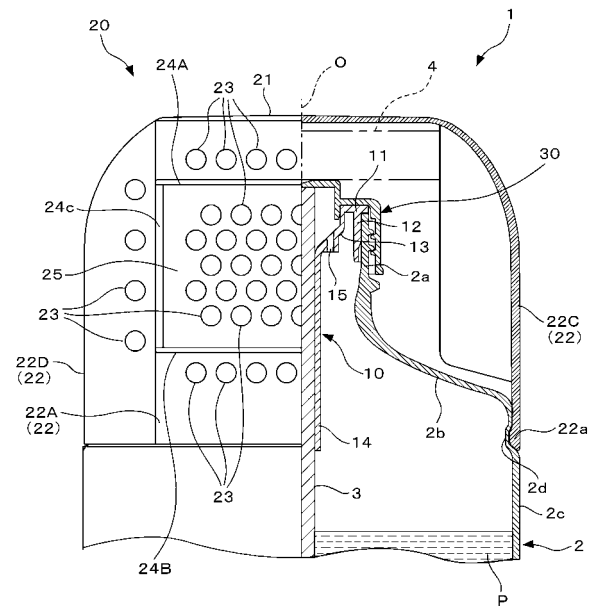
【図 4】



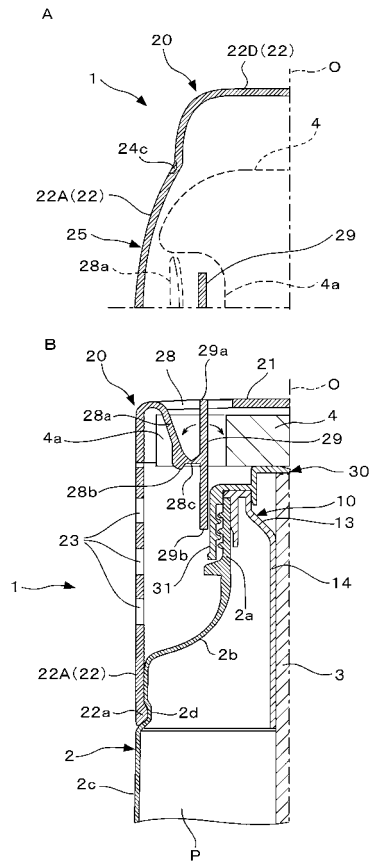
【図 5】



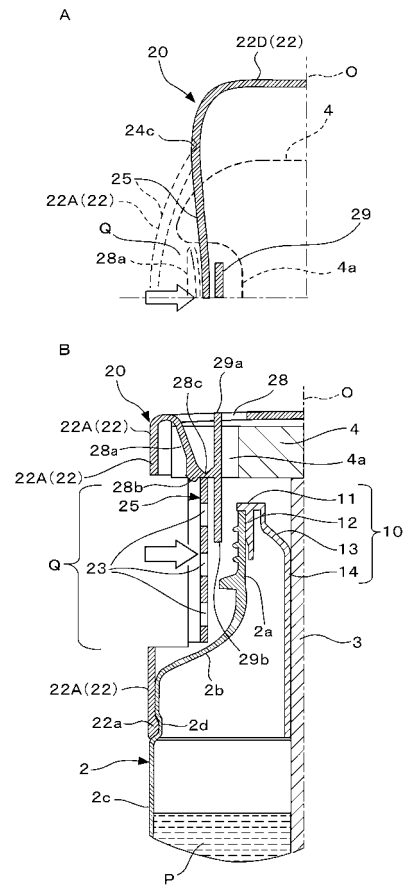
【図 6】



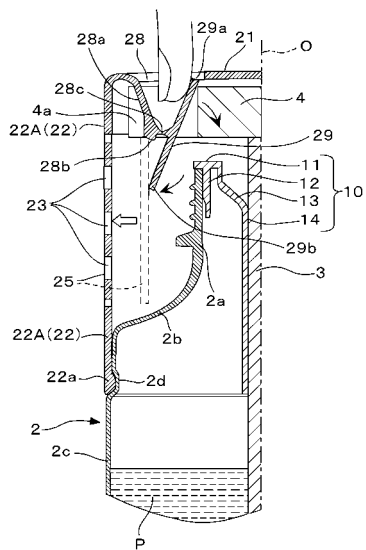
【図 7】



【図 8】



【図 9】



フロントページの続き

(72)発明者 藤原 宏太郎

東京都江東区大島 3 丁目 2 番 6 号 株式会社吉野工業所内

(72)発明者 三上 礼

東京都新宿区下落合 2 丁目 4 番 6 号 エステー株式会社エステー R & D センター内

(72)発明者 小林 諒子

東京都新宿区下落合 2 丁目 4 番 6 号 エステー株式会社エステー R & D センター内

F ターム(参考) 2B121 AA11 CA02 CA16 CA17 CA21 CA22 CA31 EA01

3E068 AA35 AC09 CC03 CD02 CE03 DD08 DD17 DE08 EE11 EE19

EE32

4C180 AA02 AA03 AA18 CA06 GG12 GG17 GG20 HH10 LL06